



◆◆◆◆罪の償い◆◆◆◆

私には、子育ての分野で大きな影響を受けた二人の先生がいます。一人はアメリカ人のジェームス・ドブソン先生、もう一人はイギリス人のパトリック・マケリゴット先生です。今日はそのマケリゴット先生が、子育ての中で経験された貴重なエピソードをご紹介します。

先生の娘さんがまだ小学生の頃、ある晩、お風呂の中からすすり泣く声が聞こえてきました。目に涙をためてお風呂から出て来た娘さんを心配して「どうしたの?」と尋ねると「洗っても洗っても私はきれいにならない」と答えたそうです。よくよく話を聞いてみると、それは体についた汚れのことではないと分かりました。



実は娘さんは、家の中に置いてあった親の財布から、時々お金を盗んでいたのです。最初は十円玉を、それがやがて百円玉に、そしてついに「…玉」ではなく「…札」になりました。でも、その晩、ついに良心の呵責に耐えられなくなって、体を洗いながら泣き出したのです。

マケリゴット先生は、娘さんの告白を聞いて言いました。「そうか、それで泣いていたんだね。正直に話して謝ったこと、父さんはうれしいよ。確かに心の汚れは洗っても落とすことができないね?。じゃあ、父さんも手伝うから、これからしばらくその償いをしよう。君はお財布から取ったお金を、毎月のお小遣いを半分に返していきなさい。だけど父さんも財布を出しっぱなしにしていた責任があるから、半分は父さんが手伝うことにするよ。」

さて、それから娘さんは約束通り盗んだお金をお小遣いから毎月返済し、ついに最後まで返し終えたそうです。子どもを育てていく過程で、親は不安なことやびっくりさせられることをたくさん経験しますが、私は、優しさと厳しさのバランスを保ちながらも子どもを自立へと導いて行く素晴らしい手本を、このマケリゴット先生からたくさん教えられました。

◆◆◆◆好奇心を刺激する◆◆◆◆

子どもの学力を伸ばしてあげたいと願うなら、子どもたちが生まれつき持っている好奇心を大いに刺激してください。「うちの子は、学校のお勉強はからっきしだめなのに鉄道に夢中で、知らないことはないくらいに何でも調べ上げているんです」などという話を時々耳にしますが、こういう子は学校で教える科目の中に「鉄道」という科目があったら、勉強が超得意な子として評価されることでしょうか。その子は、持っている好奇心のほとんどが鉄道に注がれているわけで、それが学校の勉強にも向けられたら、すぐにトップレベルの成績を納めるようになると思います。要するに、勉強ができるようになるためには動機付けが必要なのです。それには子どもの好奇心をうまく刺激してやることです。

ところで、私は中学3年生の夏休みになってから、初めて勉強らしい勉強を始めました。それまでは勉強しなさいと言われても意欲がまったくわかず、成績は低空飛行でした。でも、高校受験のために仕方なく勉強をしていた私は、ある日、ラジオから流れて来たアメリカの音楽に心を奪われました。それからは自分の生き方が一変しました。父は、そんな私の趣味の話によく耳を傾けてくれました。そして「それをもっと楽しむためには、何よりも英語ができるようにならないといけないね」と言って、私の好奇心の火に油を注いだのです。私はその夏、猛然と英語を勉強し始めました。一学期に5段階評価で2まで下がってしまっていた英語の成績は、2学期には一気に4になりました。



さて、私の言いたいことがお分かりでしょうか。もし、お子さんの成績のことでお困りの方がおいでなら、その最大の解決方法は好奇心を刺激することなのです。そのためには、お子さんの持っている興味や関心に日頃からよく耳を傾けてあげ、「それには、こんな勉強が役に立つよ」とか「そのためにはどうしても算数が必要になるね」などと言って、勉強の動機付けをしてあげることです。